

農業を、仕事にする。

実は農業に適したまち

行田市は関東平野のほぼ中央部に位置し、利根川・荒川の二大河川に挟まれているため、地層は大変肥沃です。温暖で日照時間も多いという気候的利点を生かした稲作、麦作が農業の中心となっており、農地の90パーセント以上が水田となっています。耕地率(県土面積に占める耕地面積の割合)では、埼玉県が全国第4位ですが、その県内でも本市は上位に位置しており、農作業するのに最適な場所といえます。



01 就農相談

農業を始めるための情報収集をし、イメージを具体化させていきます。また、農業を始めたいと思っても「何から始めればいいのか」分からないときは、関係機関(就農相談窓口)に連絡し相談してみましょう。

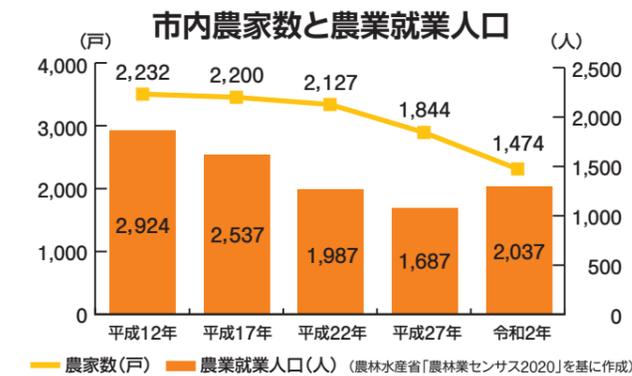


主な就農相談窓口

- ・県農業支援課 ☎ 048-830-4052
- ・公益社団法人 埼玉県農林公社 ☎ 559-0551
- ・加須農林振興センター農業支援部 ☎ 0480-61-3911
- ・農政課(内線386)

高まる農業への関心

農林水産省では、現状を把握するため、5年ごとに農林実態調査を実施しています。「農林業センサス2020」によると、全国の農家数は、平成12年の約312万戸から令和2年には約174万戸にまで減少しています。本市の農家数も平成12年の2,232戸から令和2年には1,474戸にまで減少しており、高齢化と後継者不足という問題に長らく直面しています。その一方で、本市の農業従事者数は、平成27年の1,687人まで減少傾向にありましたが、令和2年では2,037人と初めて増加に転じており、農業への関心が高まっています。



02 農業体験・知識

就農を決断する前に必要なことは、「農業とはどういうものなのか」を実際に体験することです。休暇などを利用して農業体験研修(5~30日程度)を受け、自分の目指している職業であるかをしっかりと判断してください。

ガンバレ!
農業



グリーン・ツーリズム埼玉

県が実施している「グリーン・ツーリズム埼玉」では、農業大学校などに通う前に農業体験などあらゆる形で農業に触れることができます。



就農するに当たって 資金はどのくらい必要?

新規就農するに当たって用意した自己資金の平均額は232万円で、就農した1年目に実際に必要となった費用は平均569万円(全国新規就農相談センター「平成28年度新規就農者の就農実態に関する調査結果」)。農地や住宅、設備・機械などを用意する費用の他、売り上げが安定するまでの収入が少ない時期の生活費のことも考えると、1,000万円程度は用意する必要があるといえます。

しかし、この金額を全て自己資金で用意できる方はほとんどいません。設備・機械などは中古の購入やレンタルを活用し、また公的機関などの支援事業を活用することも検討しましょう。

明日の農業担い手育成塾

自立経営を目指す新規就農希望者が、就農希望地で確実に就農できるよう支援する県独自の制度です。実践研修・農地や販路の確保・資金相談を行っています。

03 技術研修・就農準備

やりたい農業のイメージができれば、先輩農家や農業法人での研修、農業大学校などで技術や経営ノウハウを身に付けましょう。また、個人で経営される方は就農計画を作成し、住宅・農地・機械などの営農基盤や資金を確保してください。

行田市農業後継者奨学資金

市では、これから農業を始めようとする方を応援するため、本年度、埼玉県農業大学校の1年間の授業料の相当額を補助します。

支援の対象となるのは、次の全ての要件に該当する方です。

- ① 市内に住所を有し、年齢が満45歳未満で、埼玉県農業大学校に在学している方
- ② 習得した技能および知識を本市の農業の振興に結び付けようとする意欲が十分にあると市長が認めた方
- ③ 埼玉県農業大学校を卒業後、速やかに市内に居住および就農し、3年以上農業に従事することが見込まれる方



04 就農・就業

いよいよ就農です。分からないことや不安に思うことがあれば、先輩農家や、相談窓口などにご相談ください。



PICK UP

会社員から農家へ



こすぎ かずほ
小杉 和穂さん(40歳)

妻の祖父の代まで使用していた行田の農地を自分の手で生かしたいという思いから、昨年末に東京で約20年務めた仕事を辞め、就農することを決意しました。農業は全くの初心者ですので、4月から埼玉県農業大学校の有機農業を専攻し、一から学んでいく予定です。農家の担い手不足などが不安視されている今日、妻の実家の行田市で農業を始め、地域や環境への貢献に一役買いたいと思っています。